

ACO 放課後等デイサービスふれんど 事業所自己評価シート

令和 6 年度

職員による自己評価

実施：令和 7 年 2 月 回収 4 名

A環境面

1. 訓練室等スペース
100%確保されているとの評価だった。
2. 職員の配置数
25%が適切であるという評価だった。
3. 設備においてバリアフリー化の配慮
50%適切であるという評価だった。

B業務改善

4. 業務改善を進めるための参画
50%が評価していた。
5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか
100%の評価だった。
6. 自己評価結果の公開
75%が適切に公開しているという評価だった。
7. 外部評価について、
100%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。
8. 研修の機会確保
100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

C適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成
75%が適切にできているとの評価だった。
10. 標準化されたアセスメントツールの使用
75%が使用できていると評価している。
11. 活動プログラムの立案
75%がチームで行うことが出来ていると評価している。
12. 活動プログラムの工夫
100%が固定化しないよう工夫していると評価している。
13. 課題設定に応じた支援内容
75%が出来ていると評価している。
14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成
75%が出来ていると評価している。
15. 支援開始前の打ち合わせ
100%が出来ていると評価している。
16. 支援終了時の振り返り
50%が出来ていると評価している。
17. 記録の徹底、支援の検証・改善
75%が出来ていると評価している。
18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し
100%が出来ていると評価している。
19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援
100%が出来ていると評価している。

D関係機関と保護者との連携

20. 相談支援のサービス担当会議への参画
100%が適切な人材が参画していると評価している。

保護者による評価

実施：令和 7 年 2 月 回収 56 名 (2 月 28 日)

A環境面

1. 活動のスペース確保
89%確保されているとの評価であった。
2. 職員の専門性
89%が適切であるという評価を得られた。
3. 設備
73%がバリアフリー化の配慮がされていると評価していた。

B児童への支援内容

4. 個別支援計画作成
94%は客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価だった。
5. 活動プログラムの工夫
84%が工夫されているという評価だった。

C事業所からの情報発信

6. 利用者負担や支援内容の説明
96%丁寧な説明がなされたという評価であった。
7. 子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解
95%できている評価であった。
8. 保護者面談や育児相談の支援
86%が適切に行われているという評価であった。
9. 保護者会など保護者同士の連携
38%しか評価がなく、どちらともいえないと評価したのが 23%、機会が少ないと感じている方が 9%、詳しくわからないと答えた方が 30%だった。昨年度よりも 16%評価が下がった。
10. 苦情に対する対応
75%が適切に対応していると回答している。昨年度より上がっている。契約書の更新に伴い、再度説明をする機会があったことが影響していると考えられる。15%の方は詳しくは分からないと回答。
11. 意思疎通や情報伝達のための配慮
93%が適切であると評価している。7%は不十分であるとの評価であった。
12. 情報発信について
95%が適切であると評価している。広報誌の発行頻度を上げたこと、連絡帳アプリおよび紙媒体でも情報共有をしたことが影響したと考えられる。

21. 学校との情報共有、連絡調整

100%が適切に行っていると評価している。

22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制

75%が適切にできていると評価している。これは医的ケア児が当事業所にいないことが関係していると考えられる評価である。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解

50%が出来ていると評価している。

24. 事業所を移行するときの情報提供

25%が出来ていると評価している。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用

25%が出来ていると評価している。

27. 地域自立支援協議会等への参加

25%が出来ていると評価している。

28. 利用者に関する保護者との共通理解

50%が出来ていると評価している。

29.ペアレントトレーニング等の保護者支援

100%が出来ていると評価している。

E 保護者への説明責任

30. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明

100%が丁寧な説明を行っているという評価がある。

31. 保護者からの相談対応の支援

75%が出来ていると評価している。

32. 保護者同士の連携の支援

75%が出来ていると評価している。

33.子どもや保護者からの苦情対応

100%が対応できていると評価している。

34.定期的な情報の発信

100%が対応できていると評価している。

35.個人情報への留意

100%が対応できていると評価している。

36.子どもや保護者との意思の疎通・情報伝達の配慮

100%が対応できていると評価している。

37.地域に開かれた事業所運営

50%が対応できていると評価している。

38.緊急時・防犯・感染症対応マニュアルの策定と周知

100%が対応できていると評価している。

39.非常災害に備えた訓練

75%が対応できていると評価している。

40.虐待防止の研修・適切な対応

100%が対応できていると評価している。

41.身体拘束の対応の組織内での決定と子ども・保護者への説明

100%が対応できていると評価している。

42.食物アレルギーのある子どもへの医師の指示書に基づく対応

100%が対応できていると評価している。

43.ヒヤリハット事例集の作成と事業所内での共有

100%が対応できていると評価している。

D. 保育所等訪問支援（担当者のみ回答）

44.学校との連携が十分にできているか。

80%が十分にできていると感じている。学校から「アドバイスは受けない」と言われ、連携が難しいことがあるという意見があった。

13.個人情報の扱いについて

84%が十分注意していると評価している。10%の方が詳しく分からないを選択されている。

D 非常対応

14. 緊急時対応、防犯、感染症対応について、89%が適切に対応していると評価している。そうは思わないと回答された方が4%、詳しくは分からないが5%であった。

15. 非常災害の訓練

71%が適切に行われていると評価している。どちらともいえないが9%、適切に行われていないが2%、その他、新規利用者の方など、分からないと答えた方が18%。

E 満足度

16. 通所を楽しみにしている

評価は84%であった。

17. 支援への満足

評価は96%であった。昨年度に比して微増。約9割の方より満足頂いているという評価が得られた。

D. 保育所等訪問支援（利用者のみ回答）

18. 支援への満足

評価は100%であった。ただ、学校に依頼しても受けられなかったという意見があった。

事業所内での分析

【共通点】

環境面：職員の専門性、スペースの確保についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化については73%の支持を得られているが、建物の構造上の問題も起因しており解決が難しい面もある。職員間で工夫して改善できる面については鋭意進めていきたい。

児童への支援内容：職員・保護者ともに評価が高い内容が多かった。保護者からは個別支援、集団支援など子どもの特性に合わせたプログラムや保護者への丁寧なフィードバックをはじめとした対応を評価していただく意見があった。また集団支援においてはお子様が楽しみに通われている点を評価いただく意見が多かった。保育所等訪問では学校との連携に難しさを感じる事が保護者・職員共にあり、連携が取ればより良い支援につながっていることが分かった。

事業所からの情報発信：昨年度に比べ、広報誌の発行頻度が上がり、アプリでの共有に加え紙媒体での配布も併用したことが影響していると考えられる。また苦情対応については昨年比で減少しているが、分からないと答えた方がおられることについては、ご利用開始からの日が浅くて分からないといった声等もあった。職員側としては保護者対象のイベントの積極的な企画が不足していることが挙げられた。

非常対応：過半数が適切に対応していると評価している。昨年度に比べ非常災害の訓練の項目は減少しているが、新規利用者や個別支援の中で都合が合わず実施できなかった方が一定数いたためと考えられる。

【相違点】

環境面：職員の評価として人員の配置数に疑問が残るという意見が出ている。

児童への支援内容：相違点は特に見受けられなかった。

保護者への説明等：相違点は見られなかった。

非常時の対応：保護者側の評価に対して職員側の所感として非常時の対応に不安が残るという意見がある。災害や感染症発生時のマ

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・少人数クラスあるいは個別での対応が主であることから、保護者との直接的な接点が多く、情報共有のしやすさがある。日々のアセスメントに加え、保護者のニーズも即時的に拾いやすい。
- ・法人全体の合同イベントの評価をいただいている。

事業所の改善点

- ・事業所職員間でも保護者に対しても、緊急時の対応や訓練等の情報共有の頻度を上げる。
- ・保護者会や交流会等を増やし、保護者同士の交流の機会を設ける。
- ・緊急時の対応について職員への継続的な研修、訓練の機会を設けていく。
- ・保育所等訪問支援では学校との連携を円滑に取れるよう、保護者と協力した働きかけを行っていく。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 階段を上ることに負荷がかかるご利用者は階段を上らずに支援が受けられるように 1 階での支援実施の配慮を継続していく。

支援内容：

- ① 子どもや保護者の要望を話し合いながら取り入れ、計画的に活動プログラムの工夫を図る。
- ② 支援やプログラムの内容の専門性維持のため、引き続き研鑽していく。
- ③ 保護者からの相談内容は、担当者のみならず事業所全体で向き合っていく。
- ④ 保育所等訪問支援は保護者との連携を密にし、連携を取っていく。

情報発信：

- ① 保護者会、談話会、交流会を定期的に開始する計画を立案実施する。また、保護者会や防災訓練等を行ったことを周知していく。
- ② 苦情対応について、契約書の説明の際に丁寧に説明をする。

非常対応：

- ① 緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知を徹底すると共に、職員間でも共通認識で対応できるようにしていく。
- ② 災害時の訓練会の実施を継続し、広報誌などで周知していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今後も、満足いただける支援継続のため、子どもたちひとりひとりを取り巻く環境も支援の視野に入れていきます。また、保護者同士の交流の機会の提供ができていないことが本年度も課題となりました。個別的な支援を考える枠を拡げて、次年度は保護者が求める交流の形を考えた企画をしていきたいと思います。引き続き、事業所全体で、子どもたち、その彼らの環境に関わっていける支援体制を意識していきます。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれんど
担当者 野中 友美